

2 少子化に関する市民アンケート調査報告書（一部抜粋）

(1) 調査概要

調査の目的

佐世保市の子どもと子育て支援に関する将来計画を策定するにあたり、参考資料とするために実施したもの。

調査対象

佐世保市在住の16歳～45歳の男女個人1,500人を、住民基本台帳から無作為に抽出

調査方法

郵送法（郵送による発送・回収）

調査期日

平成15年11月20日～平成15年12月5日

回収数

有効回収数421（有効回収率28.1%）

(2) 分析項目

結婚をしていない人の「少子化」に対する意識

有配偶者の持ちたい子どもの数と実際の子どもの数

女性の少子化に対する意識

子どもをもう一人ほしい人の少子化に対する意識

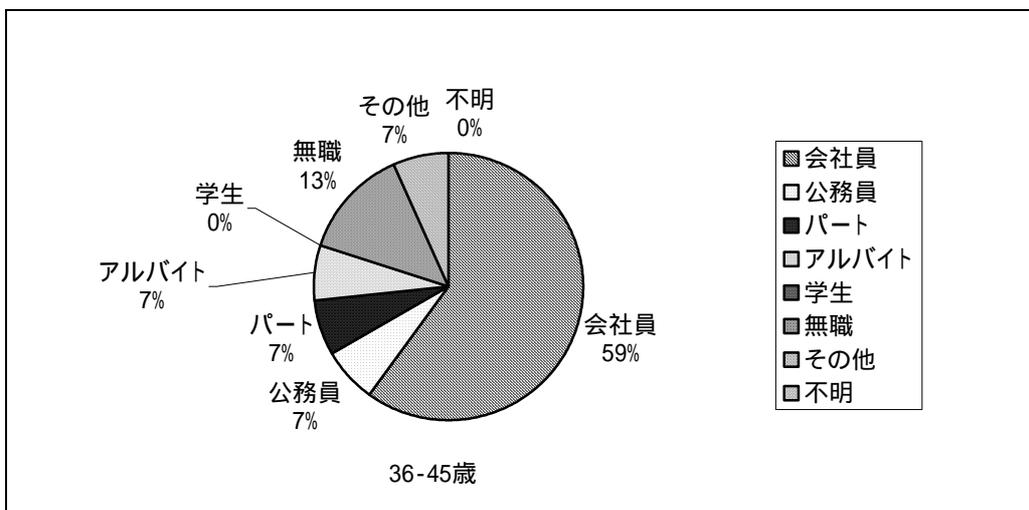
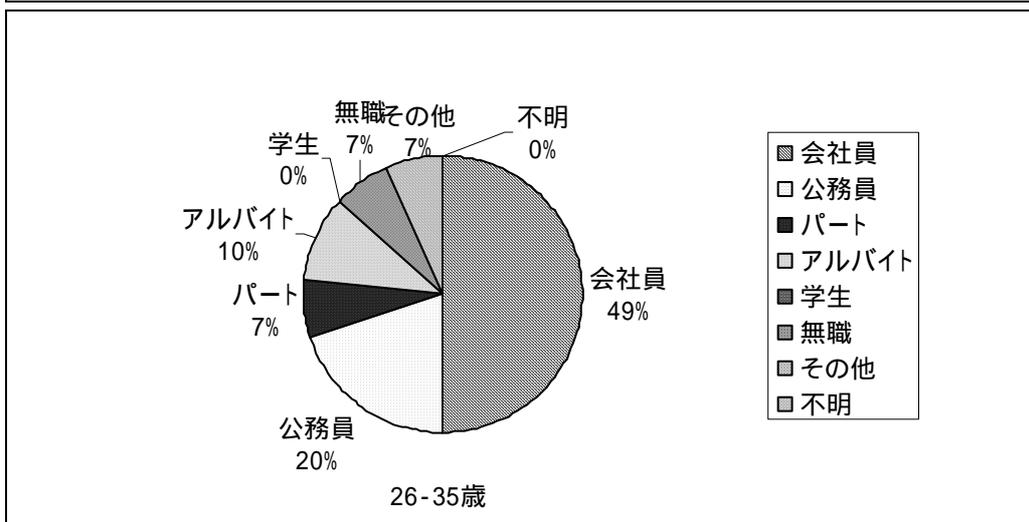
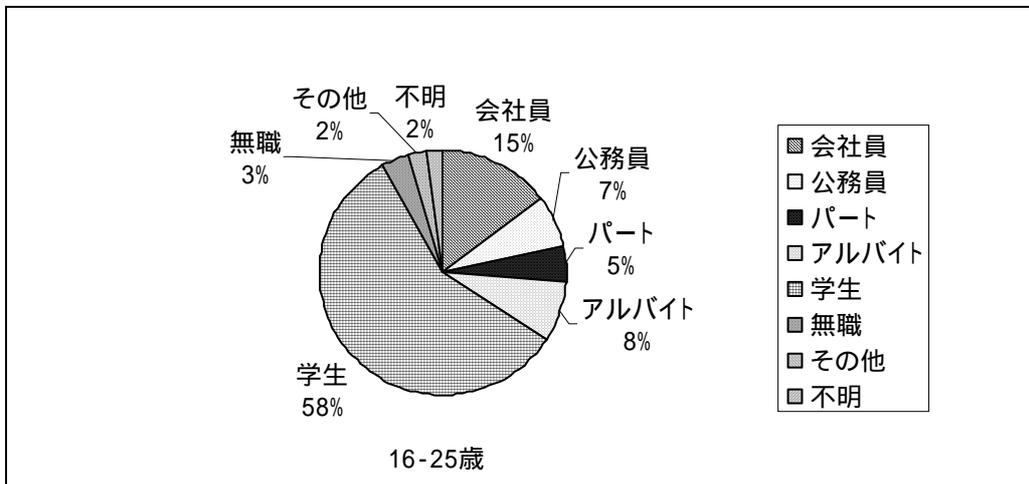
「子育てにお金がかかる」という意識

結婚をしていない人の「少子化」に対する意識

対象者・・・「配偶者なし&子どもなし」133人

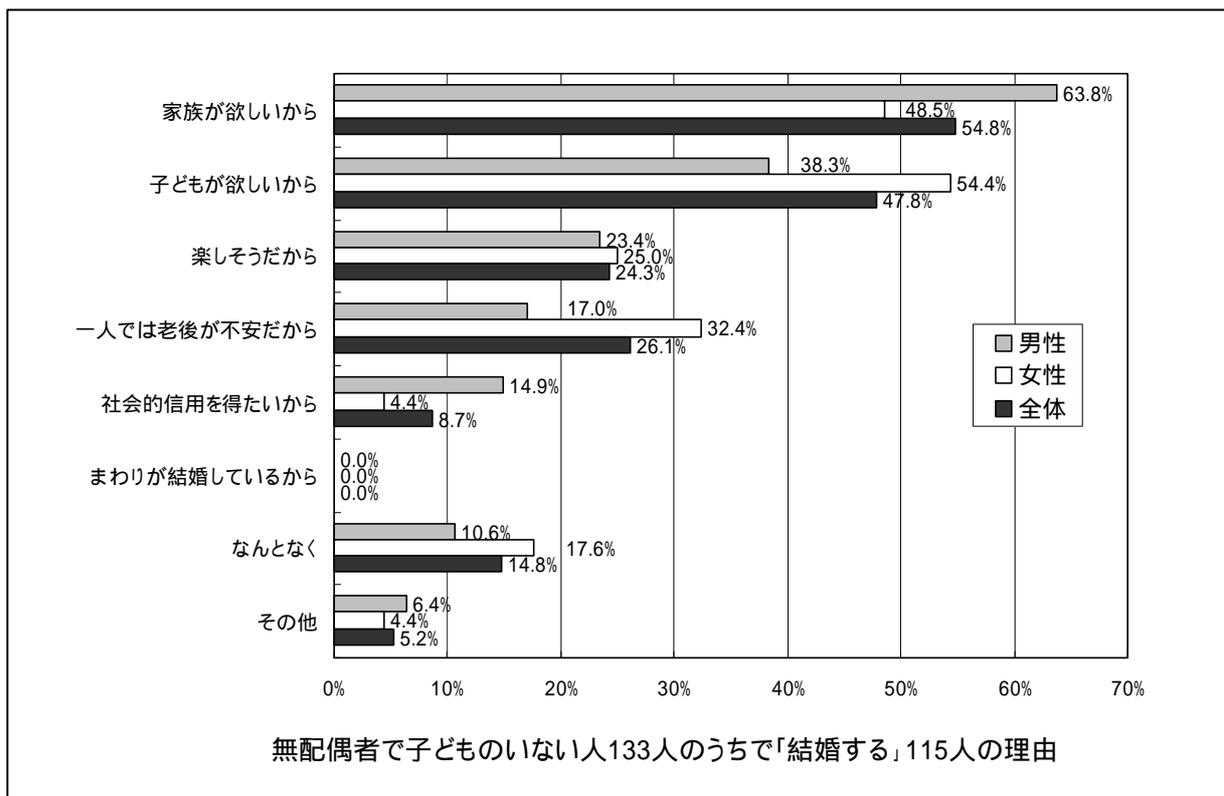
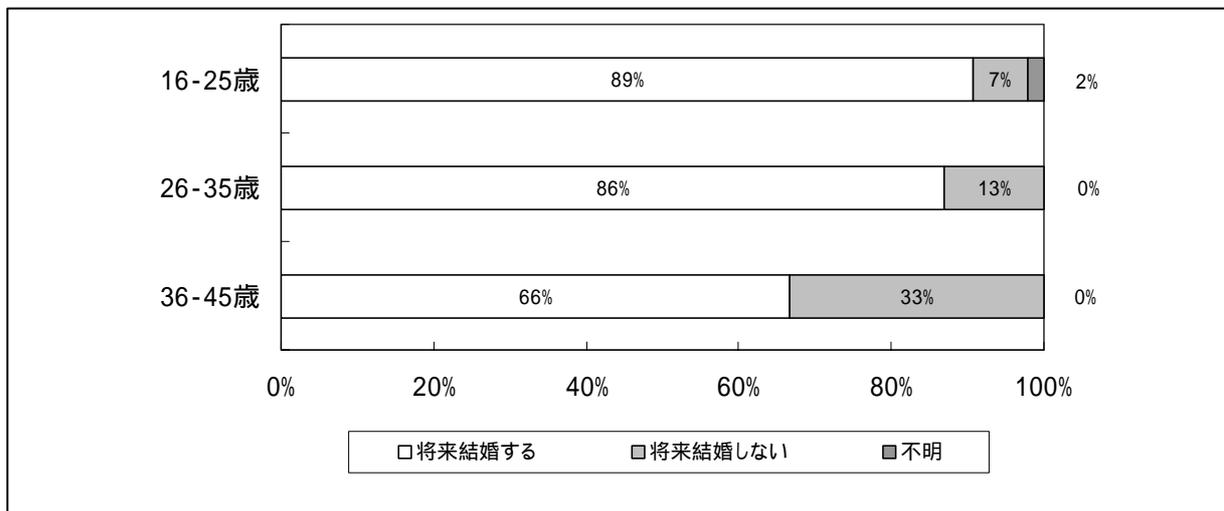
(16 - 25 歳 88 人・26 - 35 歳 30 人・36 - 45 歳 15 人)

ア 年齢と職業



イ 結婚のとらえかた

「配偶者なし&子どもなし」133人のうち、将来結婚するつもり（問5SQ4で、はいを選んだ人）は115人であり、若い世代ほど結婚への意欲は高い傾向にある。



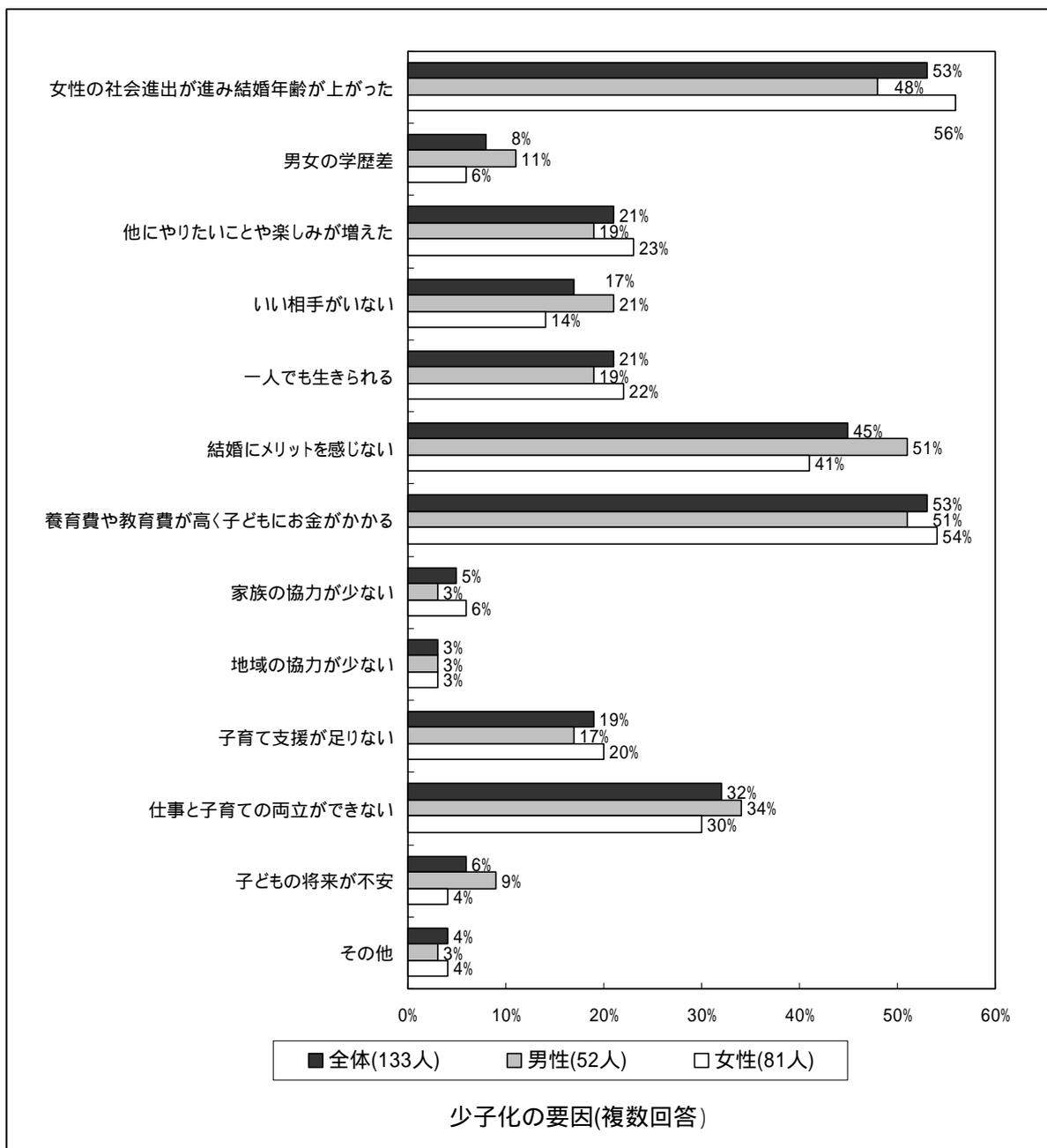
結婚したい理由に「家族が欲しいから」は女性よりも男性が、「子どもが欲しいから」は、男性よりも女性のほうが多く選択している。

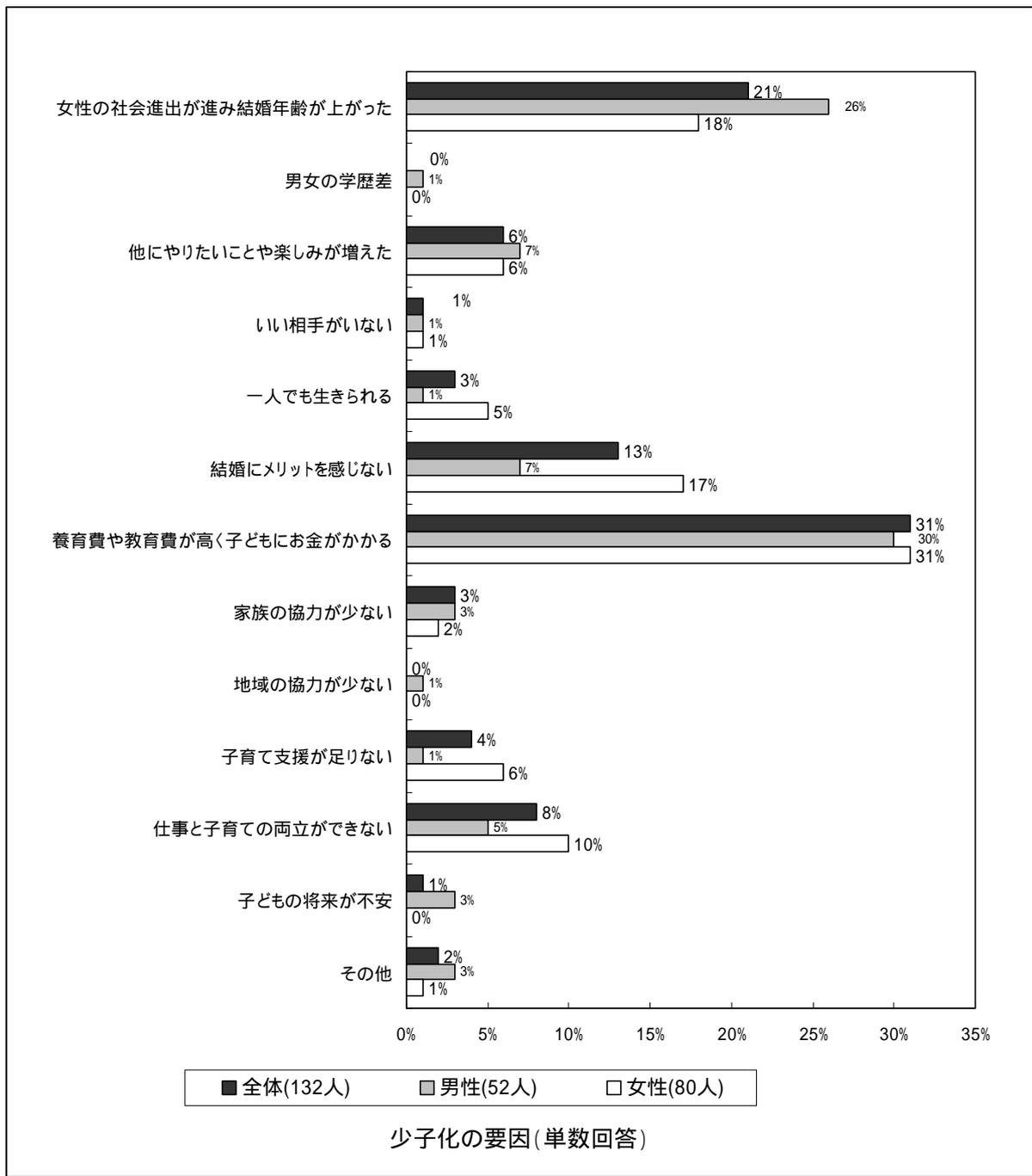
「まわりが結婚しているから」を選択している人は、皆無である。

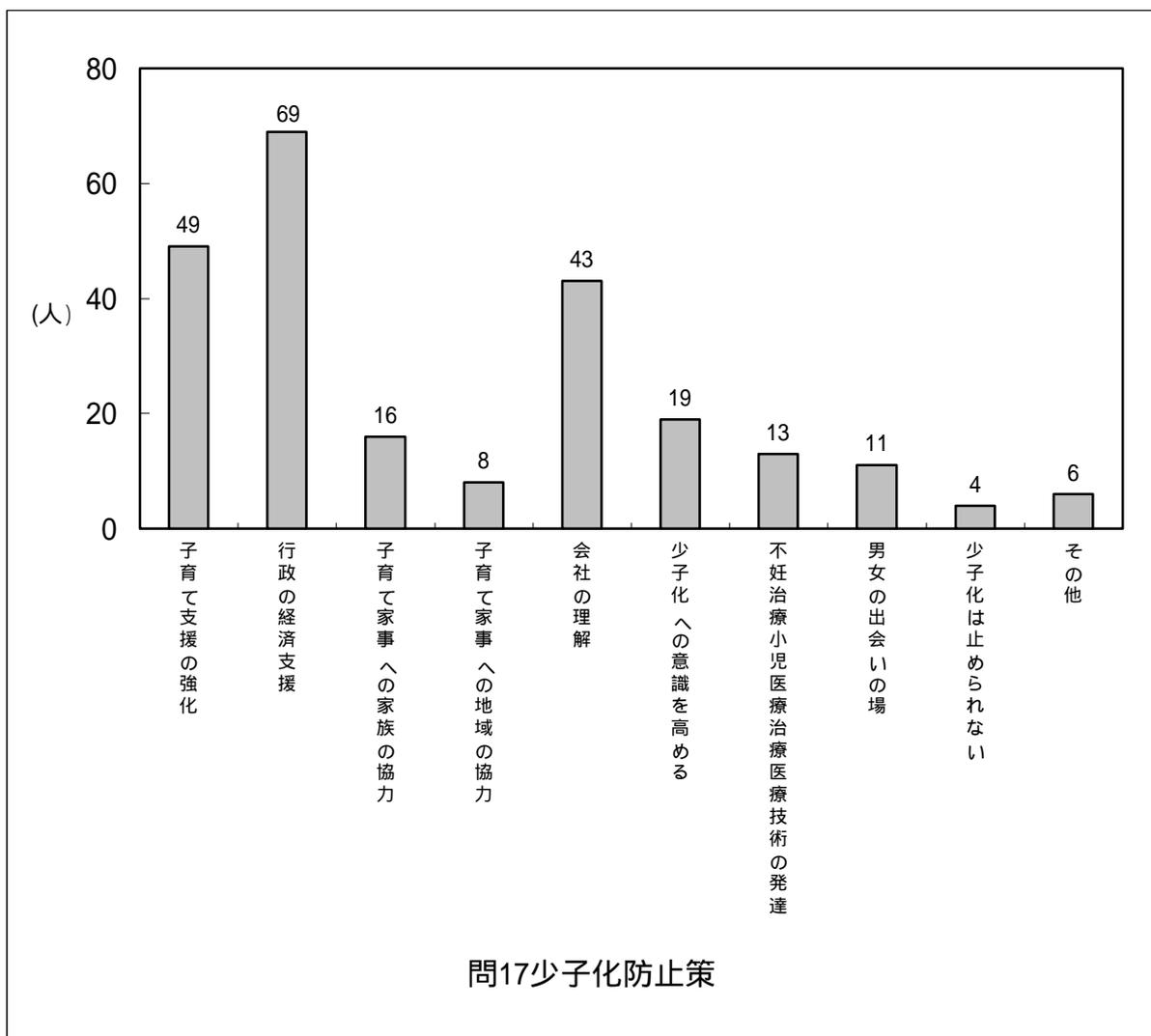
ウ 少子化要因と防止策について

「配偶者なし&子どもなし」133人が考える少子化の要因(複数回答)でも、「子どもにはお金がかかるから」が「女性の社会進出が進み結婚年齢が上がったから」と並んで、第一の理由にあげられている。

また、「結婚にメリットを感じないから」とする人が45%、特に男性にその傾向がより強いのが特徴である。







有配偶者の持ちたい子どもの数と実際の子どもの数

少子化の要因として、最近では、未婚率の増加と並んで、夫婦間の「出生力」の低下がいわれている。

本アンケート調査が示す、有配偶者の子どもの数と希望する子どもの数の関係は下記のとおりである。

どの対象者も子どもの実数よりは希望する子どもの数は多く、もうひとり産み育てたいという希望は、既婚者夫婦間には根強く存在しているといえる。

有配偶者全体

子どものいない人の7割が「子ども2人」を希望している。

子ども数1人の人は、半数が2人を、3割が3人を希望している。

子ども数2人の人では、もっとほしい人と、もう持たないと思う人の割合は、1対1である。

子ども数3人の人は、3人でよしとする人が5割を超えるが、2割近くがもう1人(4人)を希望している。また、希望よりも実数が多い人も2割いる。

男性・有職女性・無職女性

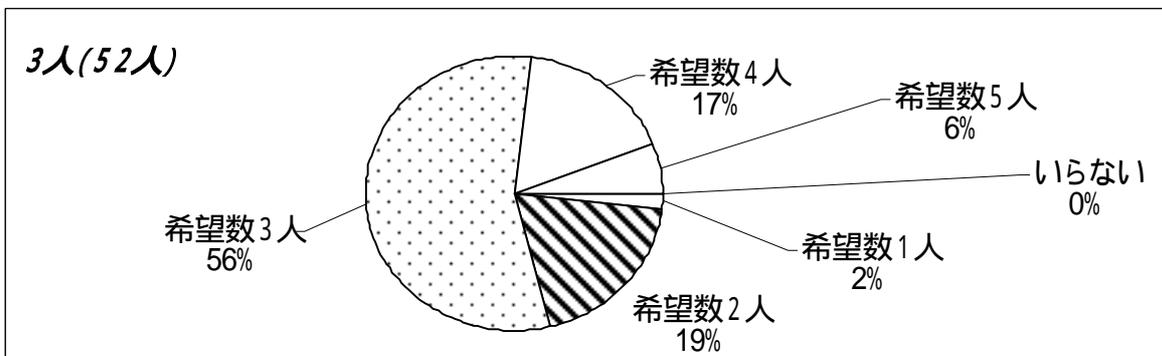
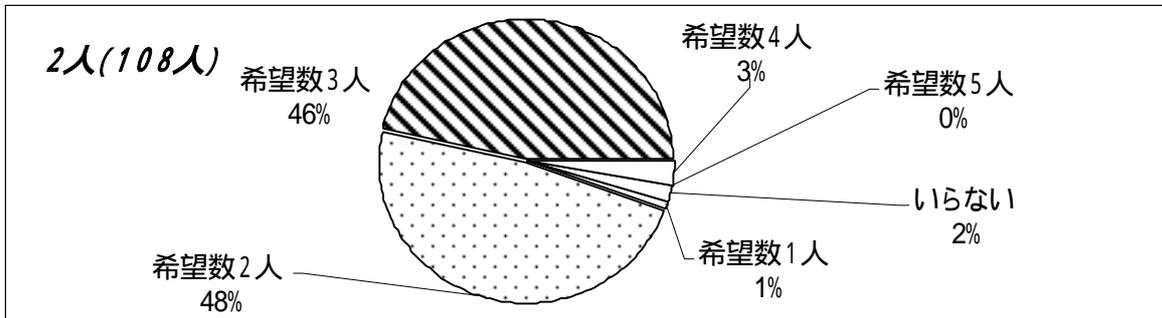
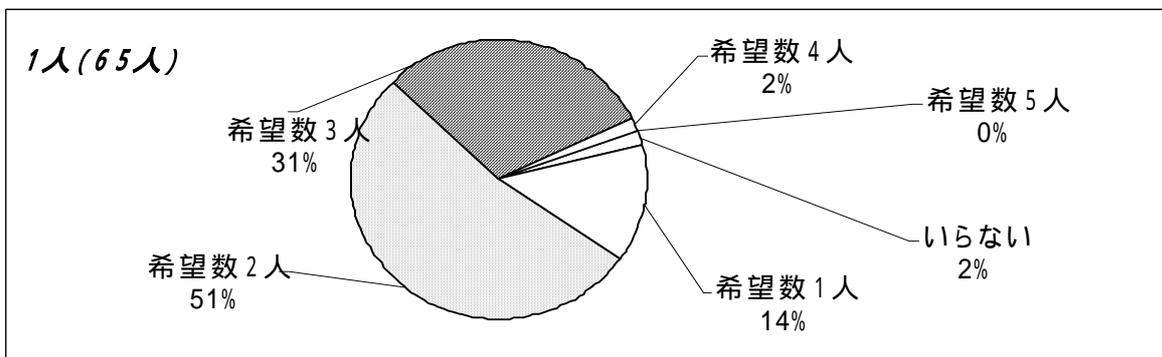
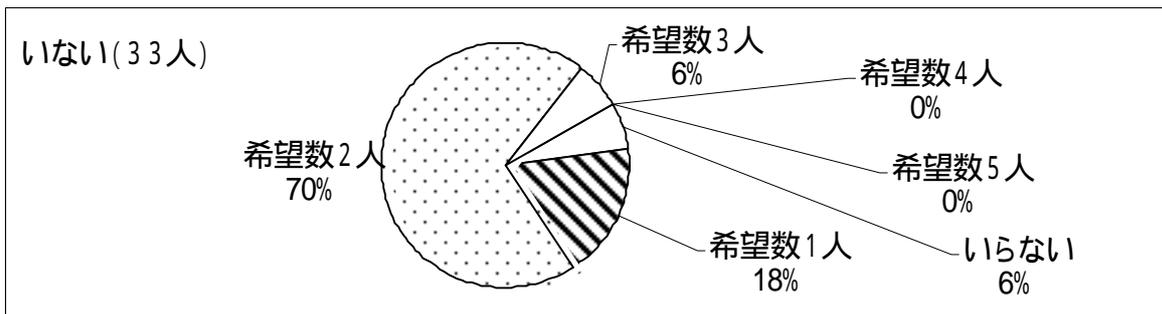
3分類間及び全体と各分類間の顕著な差異はみられない。

子ども数2人の無職女性は、6割が子どもをもう1人欲しいと希望している

有職女性の希望する子どもの数の平均は1.90人であり、有配偶者全体や男性・無職女性と比較すると低い傾向がみられる。

	全体262人	男性86人	無職女性76人	有職女性94人
子どもの実数	1.68	1.69	1.58	1.61
子どもの希望数	2.31	2.44	2.36	1.9

配偶者のいる人(262人)の子どもの数「希望と実際」

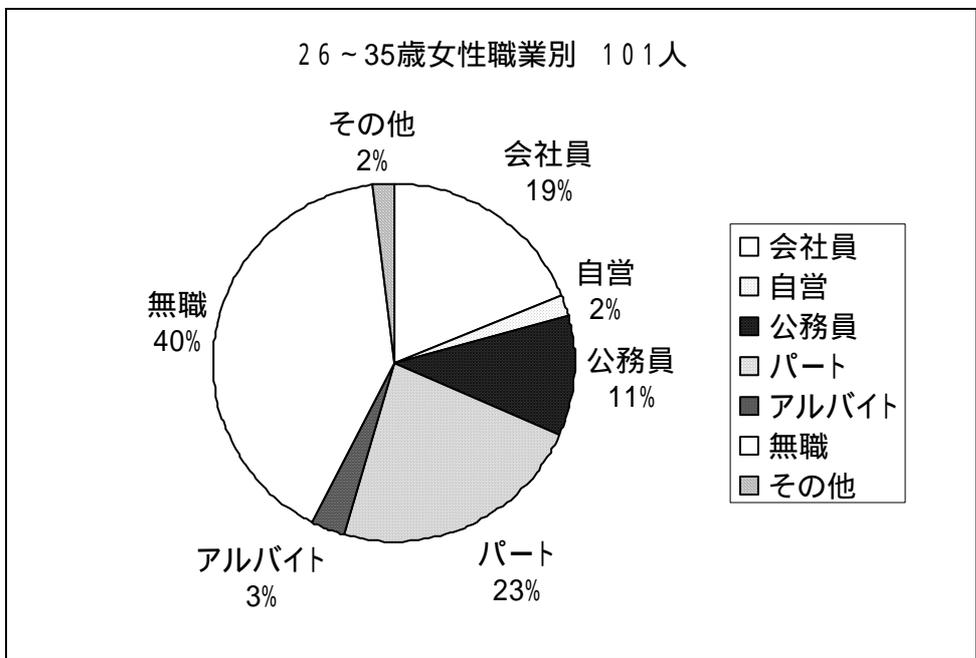
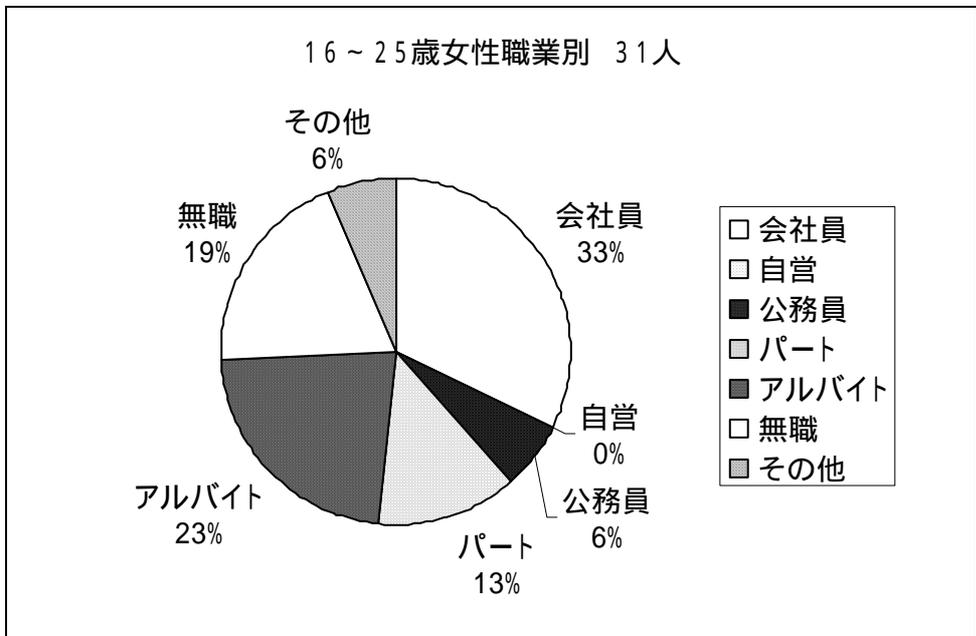


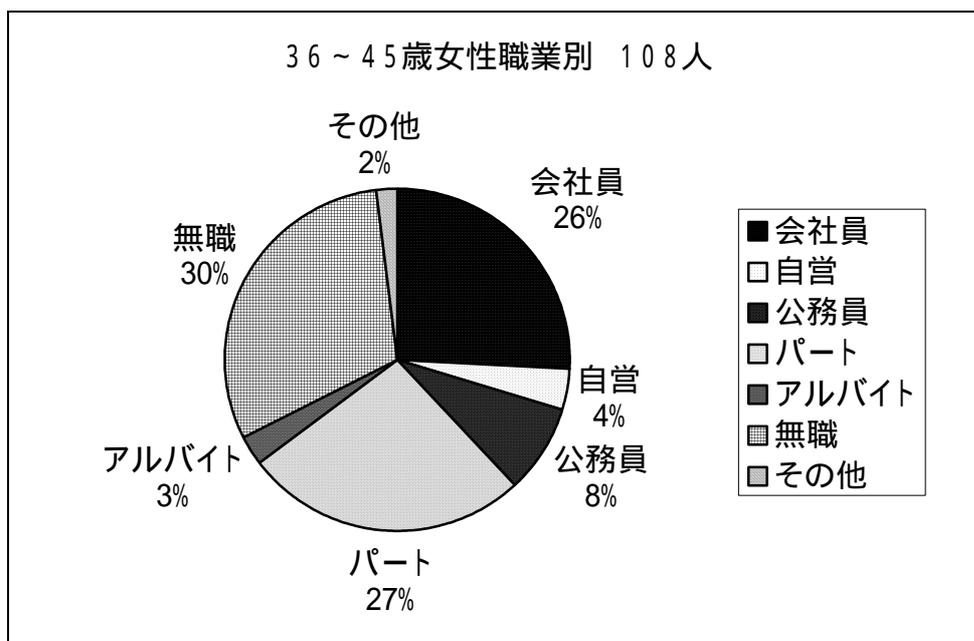
女性の少子化に対する意識

対象者・・・

女性 240人(16 - 25歳 31人・26 - 35歳 101人・36 - 45歳 108人)

ア 年代と職業





女性の職業の特徴

16-25歳の方は、正規職(会社員・公務員)と臨時職(パート・アルバイト)が1:1の割合である

無職の比率は、16-25歳19% 25-35歳40% 36歳 45歳30%である。子育て年齢にあたる世代の専業主婦率が高い。

パート比率は36-45歳が27%と、最も高い。

イ 有職既婚女性と無職既婚女性の少子化に対する意識

対象・・・

「配偶者有&職業有」(会社員・自営・公務員・パート・アルバイト)94人

「配偶者有&無職」 76人

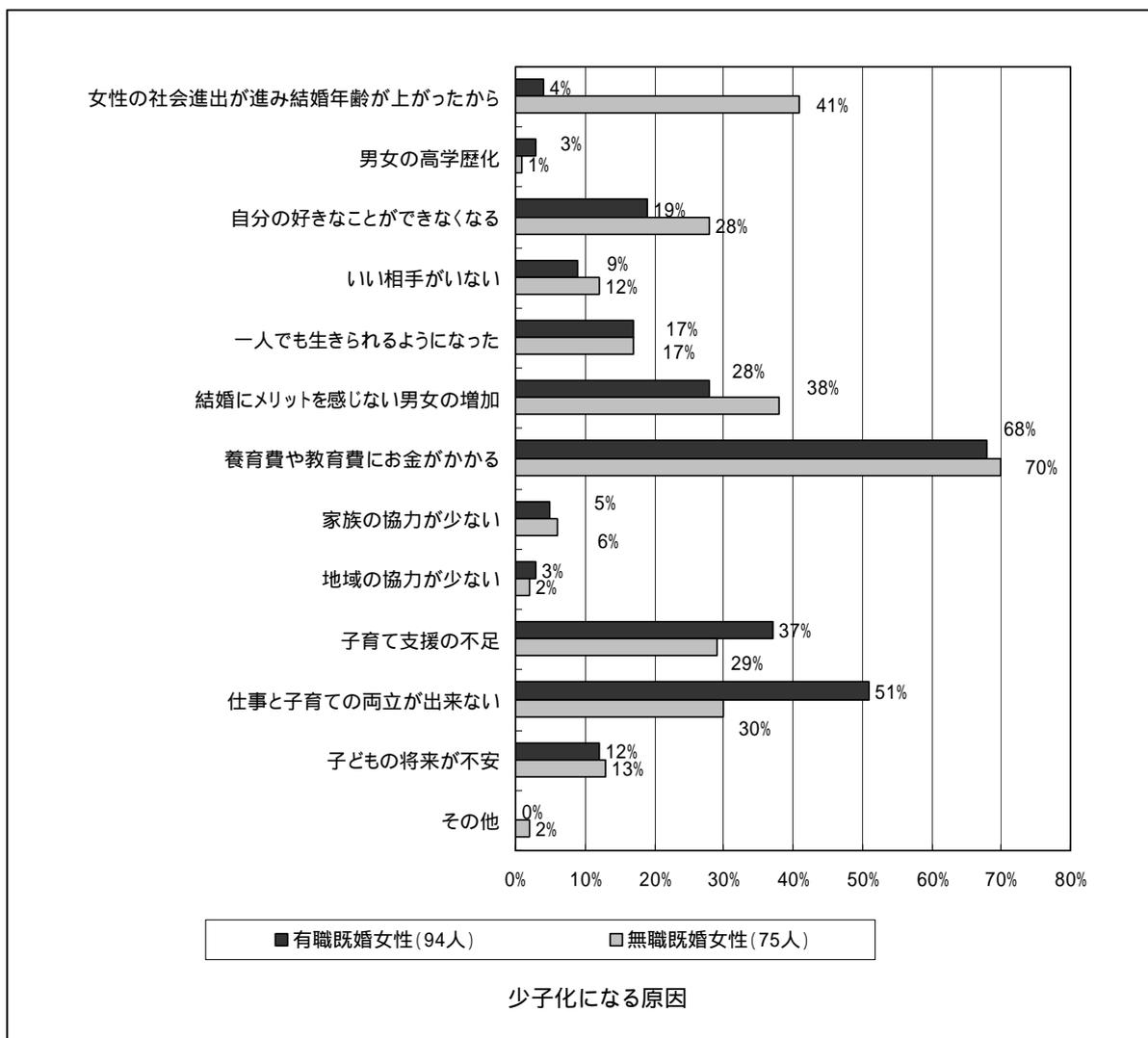
職業の有無によって、「少子化」に対する意識に多少の相違がある。

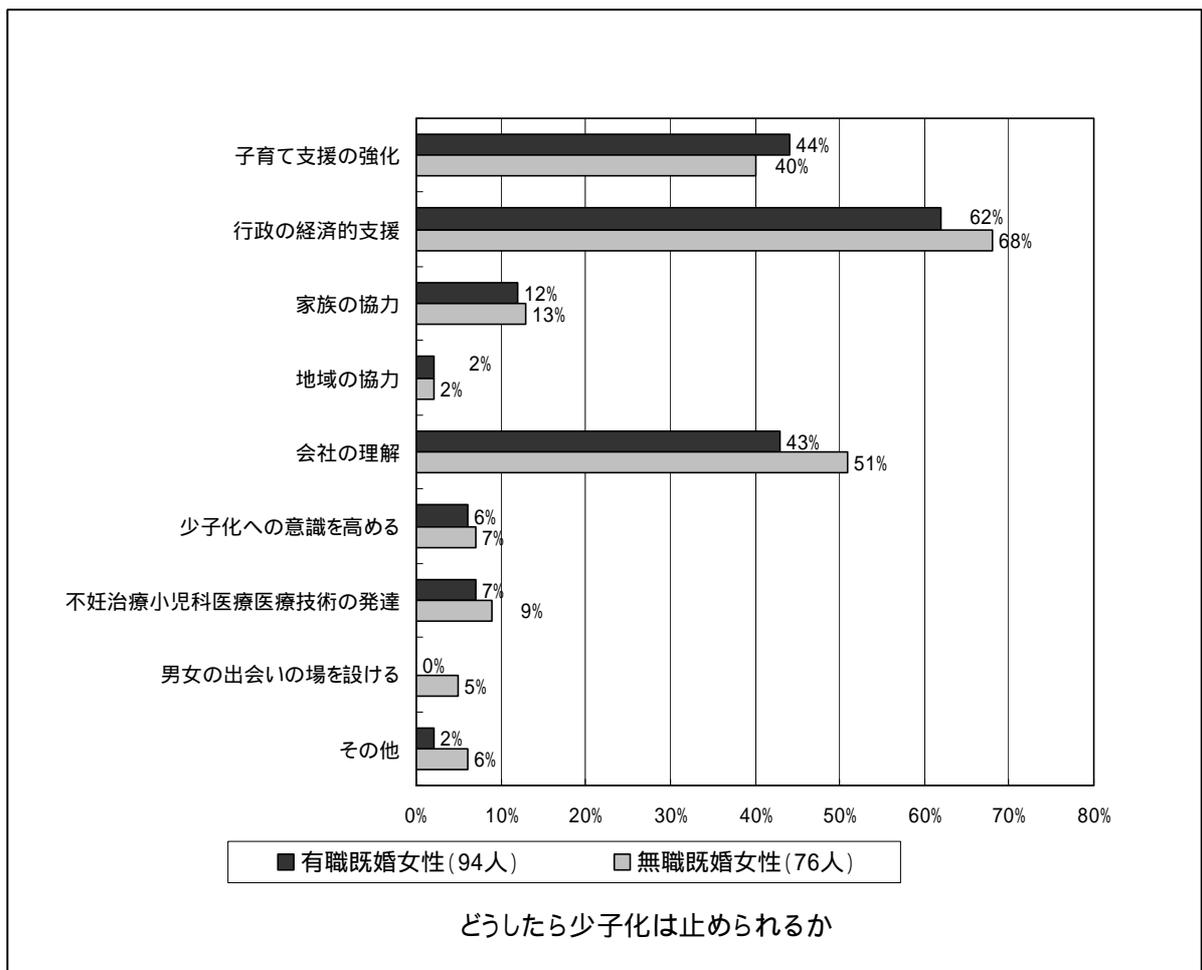
無職の女性の4割が、「女性の社会進出が進み結婚年齢が上がったから」を少子化の理由としているが、有職女性はわずか4%に過ぎない。

「自分の好きなことができなくなる」「結婚にメリットを感じない」ことを少子化の要因にあげる人は、有職女性より無職女性に多い

「仕事との両立が出来ない」「子育て支援の不足」を少子化の要因にあげる人は、有職の女性が多い。

有職も無職も「養育費や教育費にお金がかかる」が最も大きな少子化の要因だと考えている。



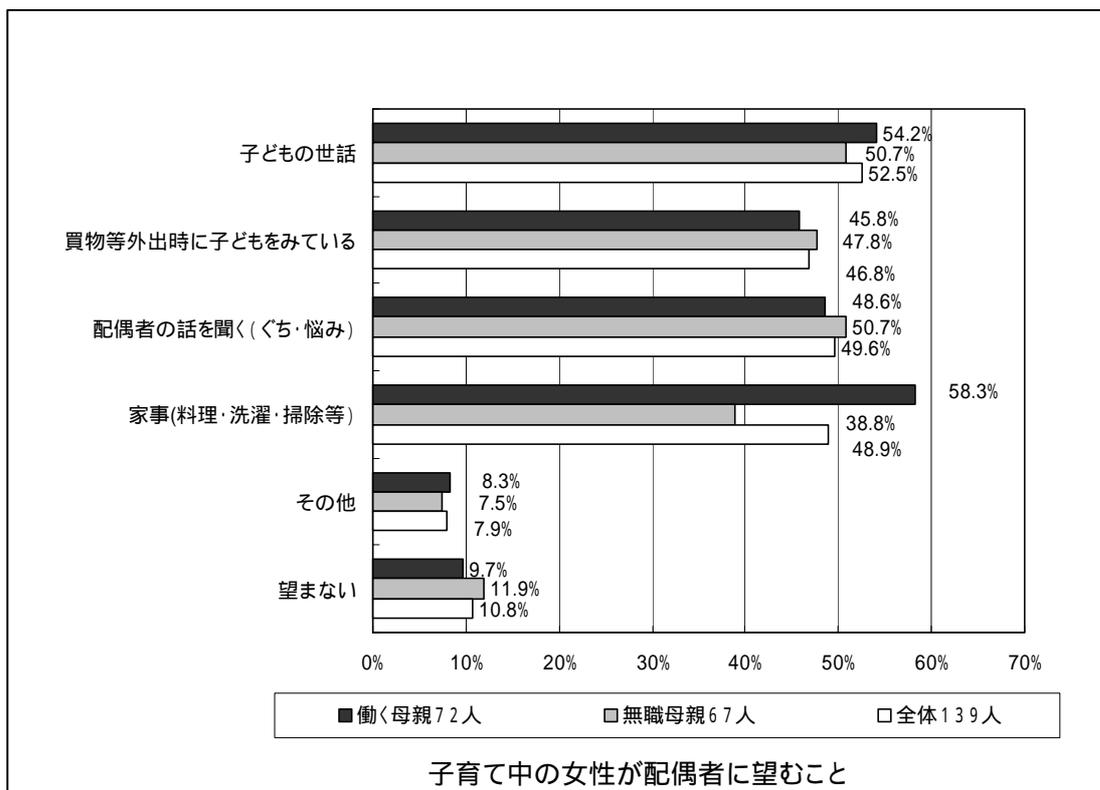
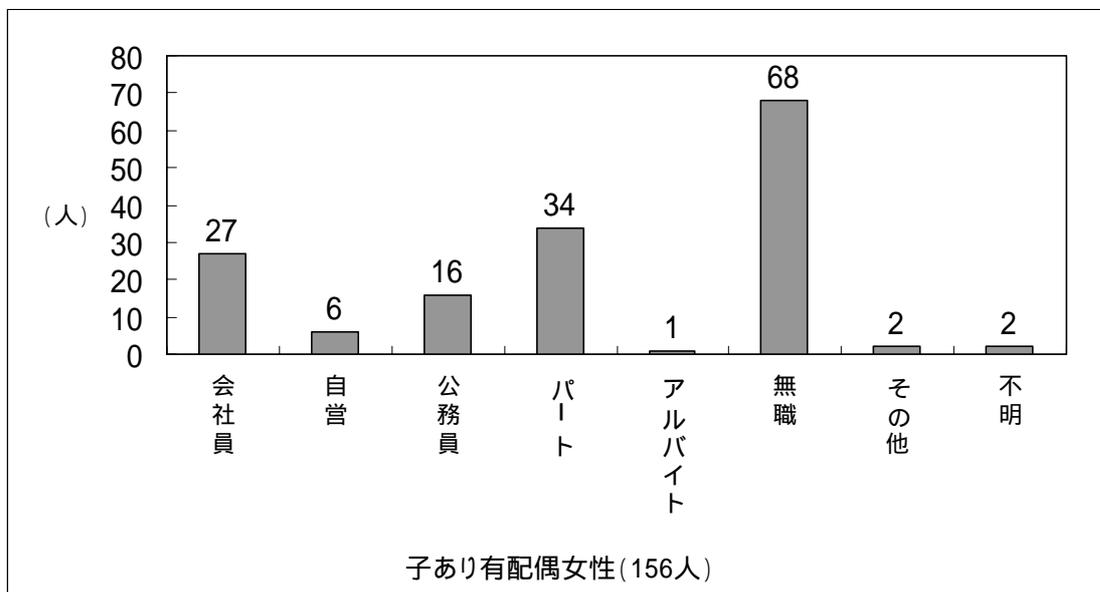


有職女性も無職女性も、「行政の経済的支援」「子育て支援の強化」「会社の理解」が、少子化対策の3本柱であるとの認識は、本調査の全体傾向と変わらない。

有職と無職間も、「会社の理解」(有職43%・無職51%)に若干の差がみられる。

ウ 子どものいる有配偶女性

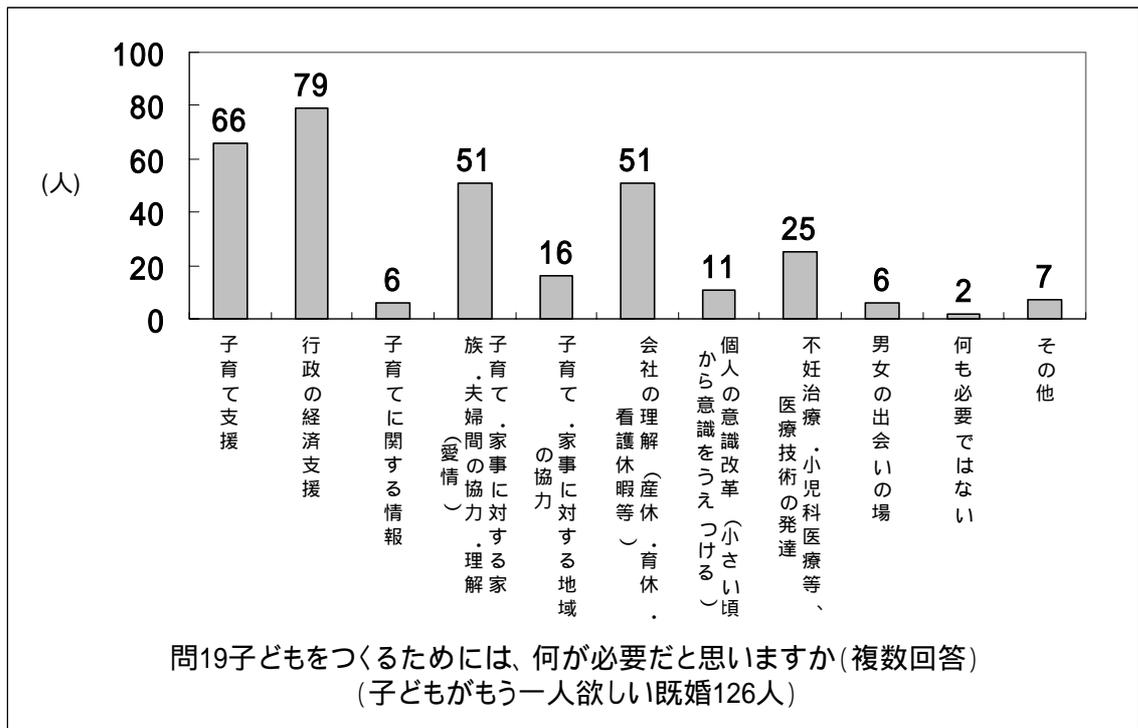
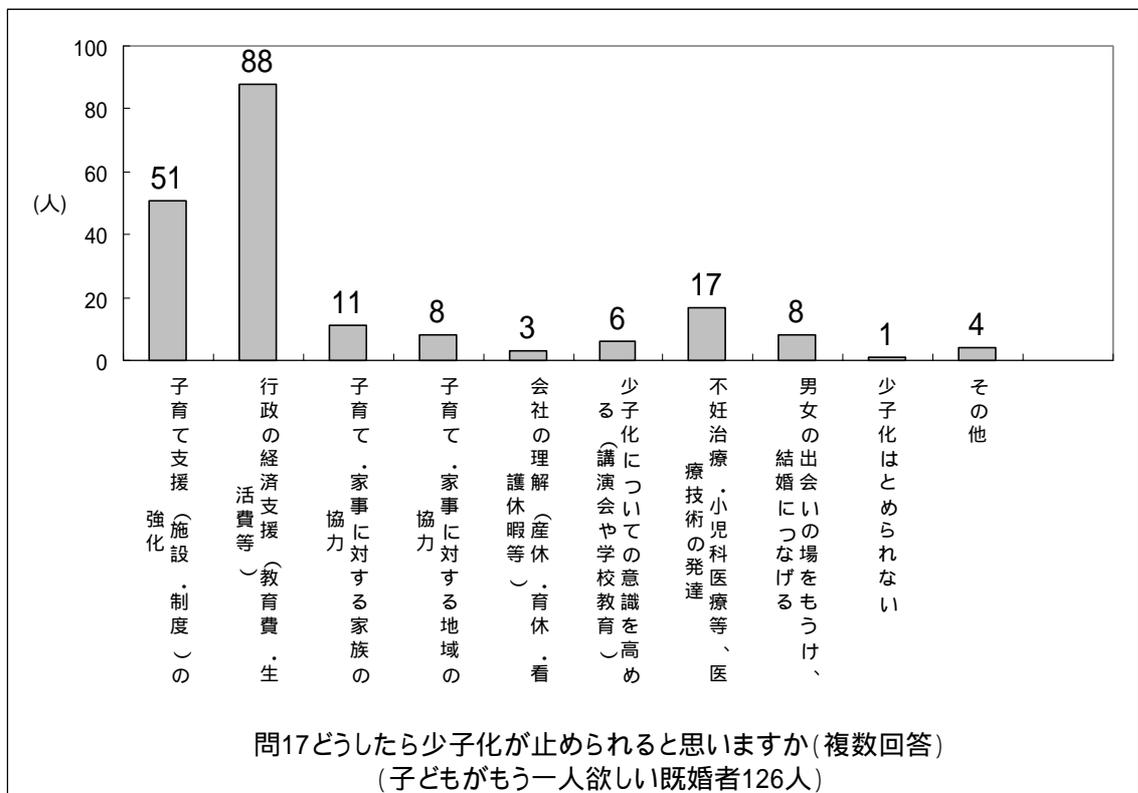
子どものいる有配偶女性の68人(43.6%)が無職、84人(53.8%)が職業を持っている

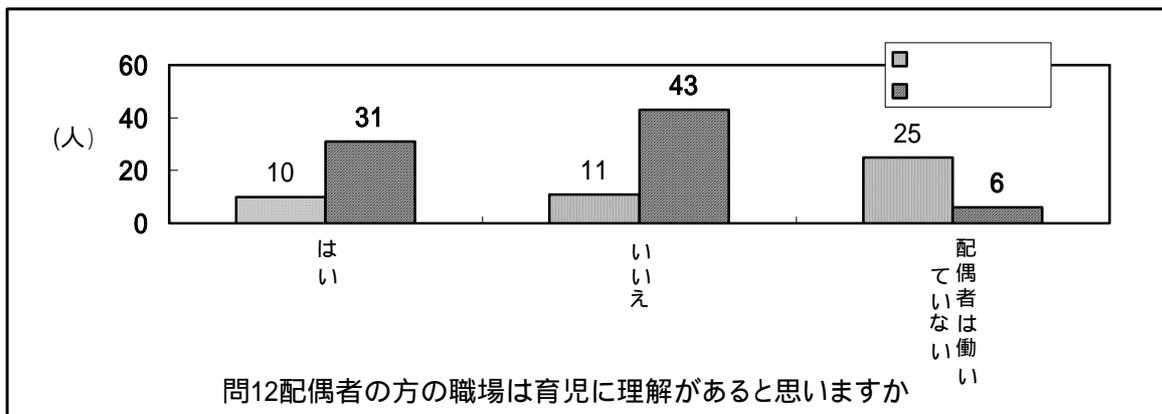
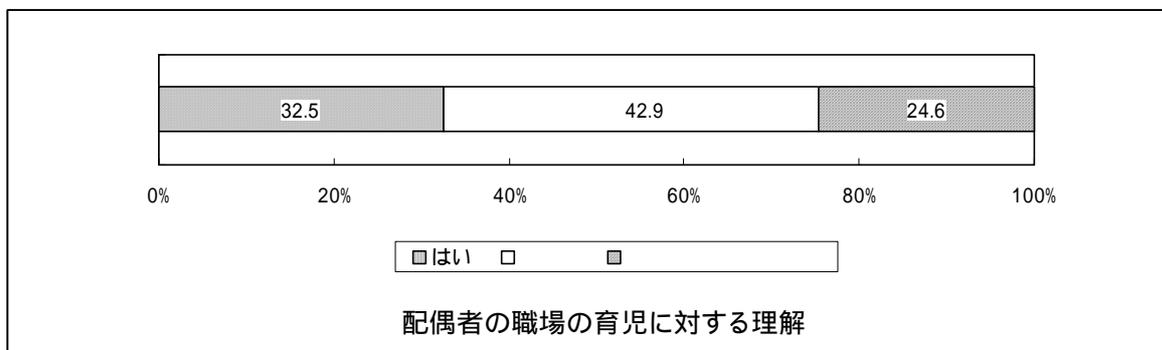
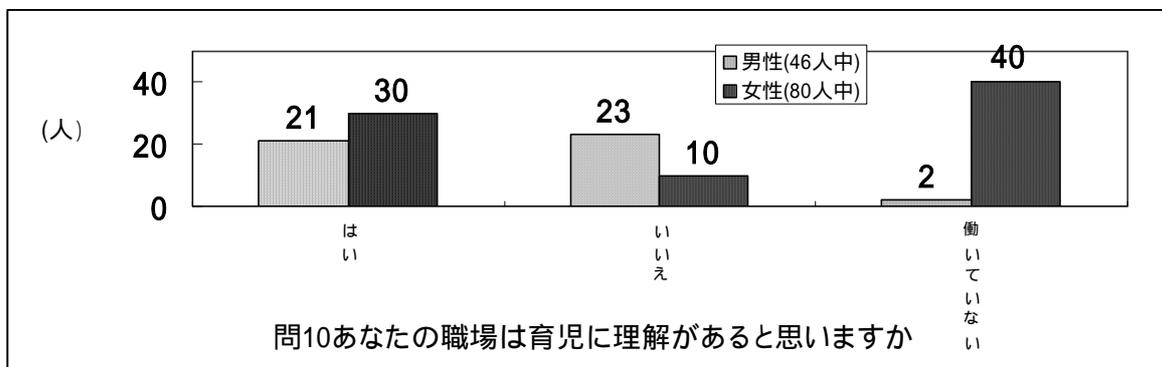
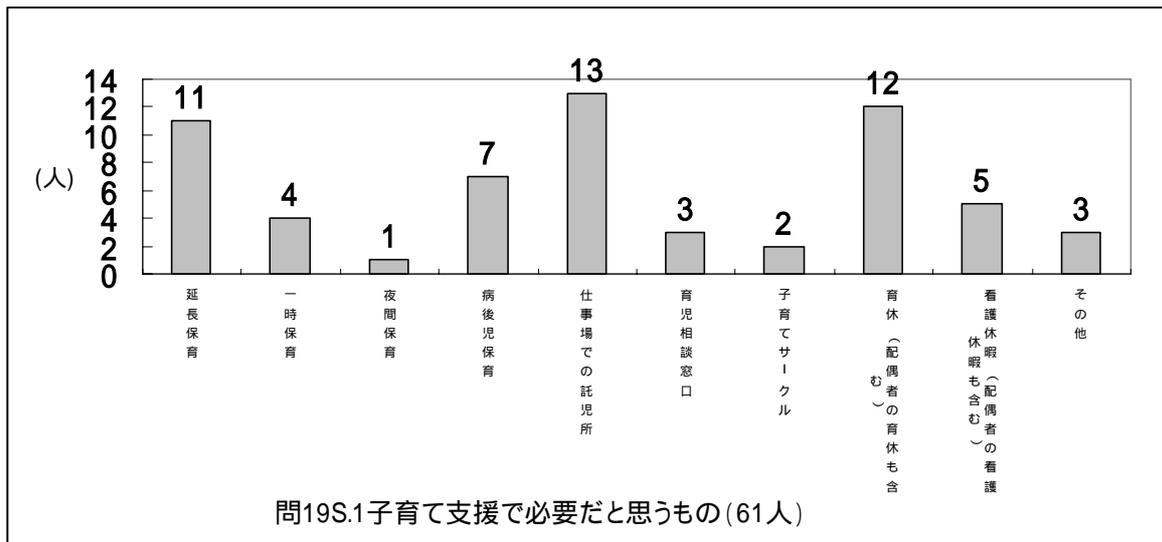


配偶者に期待するものは、「子どもの世話」「外出時に子どもをみる」「話を聞く」は有職、無職ともに同じ割合であるが、家事を期待する人は、有職女性に多い傾向が見られる。

子どもをもう一人ほしい人の少子化に対する意識

対象・・・子どもが欲しい有配偶者 男性 46人 女性 80人





「子育てにお金がかかる」という意識

対象・・・

子どもを欲しいと思わない理由に「経済的にむずかしい」を選んだ人(106人)、子どもは欲しいが作るつもりはない理由に「経済的にむずかしい」を選んだ人(27人)
計133人(男性55人 女性88人)

